

かけはし

黄の1組
~秋のダイナミックワールド号~

「秋のダイナミックワールド」において、黄の1組で展開されている遊び、その遊びが始まったきっかけなど、ご紹介させていただきます。各クラスの「かけはし」は、本園 Web サイト「園からのお便り」のページにも掲載する予定です。よろしければ、ぜひ、他クラスの遊びの様子もご覧ください。

1学期から、さまざまな身近な素材（お菓子の空き箱、ペットボトル、牛乳パックやサランラップの芯など）を使って遊び、それぞれが思い思いにつくったものを遊びに取り入れてきた子どもたち。手づくり楽器をついたり、出合った昆虫をついたり、身近な素材をいかして、いろいろな工作をしてきました。「先生、これって遊びに使える?」「お菓子、食べ終わったから、箱持ってきたよ」などと、おうちから、さまざまな身近な素材が集まる毎日です。今は、さらに、素材のもつ特性にも着目し、それらをいかした遊びをつくりだせないかと、黄組みんなで探究中です。

身近な素材をリサイクル 紙づくり

「紙だったら、自分たちでリサイクルできるかも!」という子どもたちの思いから生まれた遊び。



連日、みんなが持ち寄ってくれる身近な素材。どの遊びにどの素材が活用できるか考えました。「“プラ”は、お洋服になるけど幼稚園ではできないね」と子どもたち。



「牛乳パックは、“紙”ってマークがあるから、リサイクルできるかな」「どうやって?」「煮る?」「溶かす?」「何で?」...「水で溶かしてみよう!と実験がはじまりました。



「同じ紙の新聞紙だったらどうかな?」



「紙になったよ!」

身近な素材をリユース 迷路遊び

段ボールで遊んでいた子どもたちの「みんなが通れるトンネルをつくりたい」という意見からはじまった遊び。



段ボールの中に入って、ロボットになったり、モグラの気分になったりして遊んでいました。



「みんなが通れるようにトンネルにしたら楽しそう!」



「オバケの迷路はどう?」

「つなげて迷路にしても楽しいかも」と、迷路遊びに発展中です。

オバケがピカピカするみたいに、「ライトを、つけたらいいと思う」

身近な素材をリユース 楽器づくり

1学期から、「音探し」をしてきた子どもたちが今も続けている遊び。



「聞いて。おもしろい音がする」「たいこみたい」「吹いたら楽器になった」と、喜ぶ子どもたち。



缶の方が、音が響くね

たたく素材、たたく場所によって聞こえる音が違うことを発見。



ドラムみたい!



みんなで合奏しよう!

「私たち、ピアノ吹くね」と、セッションがはじまることも。合奏ごっこが盛り上がっています。

身近な素材をリメイク カバンやさん

お菓子の空き箱で遊んでいた子どもたちから生まれた遊び。



「このお菓子の箱って、カバンになるかな」

「カバンにしたら、なかに、いろいろ入れられる!」と、空き箱をカバンにすることに。



「お気に入りの箱も、ヒモをついたら、カバンになるね」

遊んでいるときも肩にかけられるようにと、ヒモをつけることになりました。



「ハロウィンだったから、周りにコウモリをはったらどうかな」

飾りをつけたり、色をぬったり、オリジナルのカバンになるように製作中です。

身近な素材をリユース ラグビーごっこ

ラグビーワールドカップを応援していた子どもたちから生まれた遊び。



「本物のラグビーボールだったことあるよ」

「ラグビー、日本強かったね」とクラスで話題に。「やってみたい!」と子どもたち。ボールを新聞紙でつくって、蹴ってみることにしました。



「新聞紙の周りを、ガムテープでまいて強くしよう!」



青組さんも遊びに来て、運動会で披露した「八カ」を見せてくれることもあり、盛り上がっています。